

報道関係者各位

## 県民へのクマに対する注意喚起について

春を迎え、行楽や山菜採りなどで山に入る方も増えてますが、この時期はツキノワグマが冬眠から覚め、活動が活発になる季節でもあり、クマに出合う危険性が高くなります。

今年も既に 3 件の目撃事例（4 月 11 日時点）があるほか、過去には、山菜採りや溪流釣りに出かけ、クマと遭遇した県民が大怪我を負う事故も発生しています。

人身被害の防止に向け、下記を参考に、県民に注意を喚起してくださるよう御協力をお願いいたします。

### 記

○ **クマから見れば、森林は自分の領分。人は侵入者です。**

行き慣れた山も、クマから見れば、自分の領分だということを忘れないでください。冬眠から覚めたクマは、芽吹いた山菜類を探して動き回ります。山菜を探すのに夢中で、周囲への注意が散漫になると、突然クマと遭遇することになります。

クマにとっては、人は侵入者だということを忘れずに、周囲に十分注意してください。

○ **音の出る物で、人の存在をクマに知らせましょう。**

クマも山菜に夢中になって、人の接近に気がつかない場合があります。山に入るときは、ラジオやクマ避けの鈴、笛など、音の出る物を持って入りましょう。

○ **子連れのクマに注意してください。**

冬眠から覚めた雌グマは、子グマを連れている場合があります。子連れの母グマは非常に神経質で危険です。絶対に近づかないでください。

子グマを見たら、近くに母グマがいると思ってください。周囲に注意しながら、できるだけ早く遠ざかりましょう。

○ **食べ残しやゴミを山に残さないでください。**

山菜採りなどで食べ残しやゴミを山に残してくる人がいます。これらはクマを呼び寄せる大変危険な行為です。食べ物や食べ物の包装（ガムなどの包み紙も含む）などのゴミは必ず持ち帰ってください。

○ **万一、クマに出合ったら、走って逃げたりせず、ゆっくり後退してください。**

（参考）山形県内におけるツキノワグマによる人身被害の状況

平成 27 年度 1 件（1 名）

平成 28 年度 2 件（2 名）

平成 29 年度 4 件（4 名）

（担当）

環境エネルギー部みどり自然課

課長補佐（自然環境担当）岩月広太郎

TEL：023-630-3042

〔報道監〕

環境エネルギー部次長

佐藤